

平成30年度 第2回赤穂市子ども・子育て会議 議事録

【日 時】平成31年3月19日（火）午後2時30分～4時10分

【場 所】赤穂市役所 2階204会議室

【出席委員】10名

半田結委員〔兵庫大学・兵庫大学短期大学部教授〕、山根寿美子委員〔赤穂市主任児童委員代表〕、岩崎由美子委員〔赤穂市地域活動連絡協議会会長〕、齊藤聡子委員〔御崎幼稚園長〕、寒川素子委員〔学校法人兵庫カトリック学園法人事務局長〕、古谷真理委員〔尾崎保育所長〕、目木志子委員〔坂越保育所長〕、大河奈々委員〔塩屋保育所保護者会〕、松本雅子委員〔公募市民〕、井上昭彦委員〔連合西播赤穂地区連絡会会長〕

【欠席委員】4名

金谷公子委員〔兵庫大学・兵庫大学短期大学部保育課第一部・保育課第三部講師〕、鍋島真弓委員〔城西小学校長〕、平福喬子〔赤穂市PTA 連合会母親部会副部会長〕、齊藤雅史委員〔公募市民〕

【事務局】

健康福祉部 西田佳代健康福祉部長、名田よしみ子育て健康課長、
日笠二三枝保健センター所長、
山崎智子子育て健康課こども支援係長
教育委員会 永石一彦教育次長（管理）
近藤雅之こども育成課長、高見直樹生涯学習課長、
山内陽子こども育成課こども育成担当係長
オブザーバー 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 片山氏、伊藤氏

【次 第】

1. 開会
2. 議事

(1) 第2期赤穂市こども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の実施結果について

資料

- ・第2期子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査実施結果 資料1
- ・赤穂市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査結果報告書 資料2

- 3 その他
- 4 閉会

1 開会

～事務局～

定刻となりましたので、ただ今より平成30年度第2回赤穂市子ども・子育て会議を開催いたします。本日は年度末のお忙しいなか、ご出席いただきましてありがとうございます。赤穂市子育て健康課の名田と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、金谷委員、鍋島委員、平福委員、齊藤委員が欠席されておりまして、委員14名中10名の皆さまにご出席いただいております。従いまして、赤穂市子ども・子育て会議条例第6条第2項の定足数を満たしていることをご報告いたします。

本日はニーズ調査を委託しております株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所の片山さん及び伊藤さんにもご同席をいただいております。よろしくお願いいたします。

それでは、始めに本日の資料の確認をさせていただきます。

まず、本日のレジメ、委員名簿、それから資料1の第2期子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査実施結果、資料2の赤穂市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査結果報告書（3月19日現在）、その下に自由回答がホッチキス止めについていると思います。以上でございます。ニーズ調査結果報告書につきましては、ニーズ調査を実施しましてから、結果報告を取りまとめるまでに時間がなく、事前に皆様にお配りすることが出来ず大変申し訳ありませんでした。

本日の資料で不足等がございましたら、事務局までご連絡いただければと思います。

それでは、ここから先の進行につきましては、会長にお願いしたいと思います。会長、よろしくお願いいたします。

～会長～

こんにちは。座って失礼いたします。年度末のお忙しいなか、わざわざいらして下さいまして、ありがとうございます。ニーズ調査の報告ということで、かなり大部な資料がお手元にありまして、今日はどこまでどのような審議が出来るかちょっと心配ではありますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

始めに、会議の公開、傍聴についてですが、議題には不開示情報が含まれておりませんので本日の会議は公開とさせていただきます。

本日は2名の傍聴希望の方がいらっしゃいますので、ここで入室いただきたいと思います。

2 議事

- (1) 第2期赤穂市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の実施報告について

～会長～

それでは議事に入らせていただきます。

議題1の第2期赤穂市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の実施結果について事務局の方からご説明をお願いします。

～事務局～

それでは、まず資料1からご説明をいたします。

第2期子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査ですが、平成31年1月23日から2月6日までの間、実施いたしました。対象は、小学校1年生から5年生の児童の保護者の方と、それから就学前の児童の保護者といたしまして、小学校及び幼稚園、保育所に所属する方につきましては、各学校園所を通じて配布、回収を行いました。また、未就園児につきましては、郵送による配布、回収を行いました。配布数ですけれども、小学生で1,518件、就学前児童で1,037件、合計2,555件で、そのうち回収票数は、87.9%にあたります2,245件でございました。配布、回収数の詳細につきましては、資料に記載のとおりでございまして、資料の色付けの部分が前回実施いたしました平成26年1月17日から1月31日までの配布数と回収票数の結果を載せてございます。前回83.6%の回収でしたが、この度、それを上回る回収率となりまして、非常に優秀な回収結果となりました。

あらためまして、学校園所の皆さまほかご協力いただきました皆様方に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

それでは、資料2のニーズ調査の結果につきましては、今回、調査及び報告書の作成を委託しております、株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所の片山氏及び伊藤氏の方からご説明をいただきます。なお、このニーズ調査の結果報告書ですけれども、平成31年3月19日現在、今日現在ということになっておりますのでご了承いただきたいと思っております。

では、よろしく願いいたします。

～オブザーバー～

ジャパン総研の片山と申します。どうぞよろしく願いいたします。座って説明させていただきます。

お手元資料2をご準備いただければと思います。今回、提示させていただきましたこの報告書が今回行わせていただきました調査の結果の内容となっております。ページ数が非常に多いので、全てを説明するのは、さすがに少し難しいと思いますので、部分部分抜粋してご説明させていただきます。

では、1ページをご覧ください。1ページですが、「今回の調査の概要」ということで、調査の目的、概要、報告書の見方を書かせてもらっています。調査の目的は、ニーズの把握で概要につきましては、先ほど事務局からご説明があった通りです。

ページめくっていただきまして、2ページ目からが実際の調査結果の内容となっております。

まず、3ページをご覧ください。3ページですが、「調査票を受け取ったお子さんの生年月をご記入ください」ということで、回答される方の年齢について把握する質問になっていました。ここに記載しておりますのは、平成30年4月1日現在とありますが、その年度内での年齢で、ここは記載させていただいております。こちらの結果を見ますと、左側が就学前児童、右側が小学生となっておりますが、就学前児童の回答者につきましては、前は4歳児5歳児が多い状況でしたが、今回は4歳児5歳児も多くなってはいるんですが、0歳児から3歳児も前回よりは多くなっている傾向がありました。また、小学生につきましては、4年生5年生が前回よりも多くなっていました。

続きまして、6ページをご覧ください。「お子さんの子育てや教育に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか」という質問です。ここの結果ですが、左側のグラフが就学前児童。就学前児童で一番多かったのが「父母ともに」、次に多かったのが「母親」、その次が「幼稚園」といった状況で続きます。前回調査と比較しますと「母親」が若干高くなって「幼稚園」が若干低くなっていました。また、右側のグラフが小学生ですが、小学生は「父母ともに」が最も高く、次いで「小学校」「母親」「祖父母」といった状況が続きます。前回調査と比較しますと、「小学校」が前回と比べて高くなっていることが分かるかと思います。

続きまして、9ページをご覧ください。9ページ（8）、「お子さんの子育てや教育に、もっとも大きく影響すると思われる環境はどれですか。」という質問です。ここですが、左側のグラフが就学前児童で、一番多かったのが「家庭」、続いて「幼稚園」、「保育所」という状況でして、前回調査と比較すると「家庭」が若干高くなっていました。また、右側のグラフの小学生ですが、こちらでも「家庭」が一番高く、次いで「小学校」という状況となっています。小学生の場合は前回調査と比較すると「小学校」の回答がかなり高くなっているのが分かるかと思います。

ページが少々飛びますが、20ページをご覧ください。

20ページ（11）、「あなたは子育てについて不安や負担を感じていますか。」という質問です。

この下のグラフの上の部分が就学前児童、下の部分が小学生となっておりますが、どち

らも大体同じ割合ではありますが、「いつも感じる」、「ときどき感じる」が、6割程度、「あまり感じない」、「感じない」が3割程度といった状況となっています。

21ページ、22ページにクロス集計ということで、その回答者の方が例えば父子家庭とか母子家庭とかひとり親家庭とか、そういった回答状況からこの質問をどう回答したのかといったグラフをここに掲載しています。

21ページは修学前児童で父子家庭・母子家庭の場合と、あとは家庭類型別ということで、ひとり親家庭の場合でありましたり、また、両親共にフルタイム・パートタイムだとか、専業主婦だとか、そういった場合にどういった傾向が見られるのかといった分析をこちらでしています。「不安や負担を感じていますか」というところで、例えば、上の父子母子家庭別でありますと、父子家庭母子家庭の場合は「いつも感じる」、「ときどき感じる」が、7割以上となっています。一方で「その他」の場合だと、父子母子家庭の割合よりも若干低くなっている傾向が見られます。また、下の家庭類型別グラフで見ましても、ひとり親家庭の場合は「不安を感じる」といった回答が他の家庭類型よりも高くなっていることが分かるかと思えます。

22ページの方では、小学生の場合の父子母子家庭別と家庭類型別を掲載しております。こちらも同様に、父子家庭母子家庭ひとり親家庭の場合に「不安を感じる」といった傾向があります。

続きまして、23ページをご覧ください。

23ページ「あなたは、子育てについてどのような不安や負担を感じるがありますか。」という質問です。このグラフの左側が就学前児童ですが、就学前児童で一番高かったのが、「子どもの教育やいじめなどが心配」、次いで「子どもの健康や発達に不安を感じる」、そして「仕事と子育ての両立が難しい」でした。前回調査と比較しますと、特に「子どもの健康や発達に不安を感じる」であつたり「仕事と子育ての両立が難しい」といったところが高くなっています。グラフの右側が小学生の回答です。小学生でも一番高かったのが、「子どもの教育やいじめなどが心配」、次いで「子育て（教育）にかかる経済的負担が大きい」3番目に「仕事と子育ての両立が難しい」でした。小学生の場合は、前回と比較すると、「子どもの教育やいじめなどが心配」「仕事と子育ての両立が難しい」が前回と比べて高くなっていることが分かります。

続きまして、27ページをご覧ください。

27ページは「お子さんの保護者の就労状況について」というところで、調査に回答された方が、今、どんな就労状況にあるのかというところを聞いています。このグラフ、上の2つの帯グラフが父親、下の2つの帯グラフが母親となっています。父親の場合は、就学前児童・小学生共に「フルタイム」が高くなっています。母親の場合は、就学前児童では「フルタイム」が28.3%、「パートアルバイト一日4時間以上」が18.8%、「パートアルバイト一日4時間未満」が4.3%、「専業主婦又は就労していない」が43.6%ということで、専業主婦が高くなっていました。一方、小学生の場合は、

「フルタイム」が28.3%、「一日4時間以上のパートアルバイト」が33.1%、「一日4時間未満のパートアルバイト」が、11.6%、最後に「専業主婦又は就労していない」が20.4%ということで、小学生の場合だと、「パートアルバイト一日4時間以上」が高くなっていました。

また少々ページが飛びますが、35ページをご覧ください。

35ページ「平日の定期的な教育・保育事業の利用について」ということで、こちらは就学前児童のみの調査となっていますが、実際に就学前のお子さんが普段どういった事業を使っているのかといったところを聞く質問となっています。「お子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか」という質問につきまして、今回の調査では、「利用している」が63.5%、「利用していない」が35.4%ということで、前回と比較すると「利用していない」が高くなっています。

また、利用状況について年齢別に聞いた結果を下に掲載しています。年齢別で見ますと0歳児が「利用している」15.6%に対し、4歳児5歳児がほぼ100%ということで、年齢の上昇とともに利用している方が増えていることが分かるかと思えます。

続きまして、43ページをご覧ください。

43ページ「現在、利用している、利用していないにかかわらず、お子さんの平日の教育・保育事業として、定期的に利用したいと思う事業は何ですか。」というところで、将来的にどういった事業を利用したいですかといったところを各年齢ごとに聞いている質問となっています。この表ですが、一番回答数が多かったところを網掛けで表示しています。43ページの上の表、第1希望ですが、0歳児の場合は「利用しない」が一番高く、1歳児から3歳児までは「認可保育所」、4歳児から5歳児までは「幼稚園」が最も高くなっていました。また、第2希望としましては、上の表と大きく変わりはしませんが、0歳児の場合に「認可保育所」が高くなっています。

また、ページをめくっていただきまして44ページ、「幼児教育・保育の無償化が実施された場合、お子さんの平日の教育・保育事業として、定期的に利用したいと思う事業は何ですか」ということで、実際、幼児教育・保育の無償化が実施された場合、どういった事業を使いたいですかというところを聞いている質問となっています。結果としましては、0歳児から3歳児までが「認可保育所」が最も高く、4歳児から5歳児までが「幼稚園」が高いといったところです。全体的な傾向としては、大きく変わってはいませんが、例えば、0歳児から2歳児の場合は通常の場合よりも「認可保育所」の割合が高くなっていました。4歳児、5歳児では幼稚園の預かり保育のニーズも高くなっていることが分かります。

続きまして、46ページをご覧ください。

46ページ(18)、「お子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業(子育て学習センター)を利用していますか。」という、地域子育て支援事業の利用状況について聞く質問となっています。ここにつきましては、今回・前回共に大きな違いは見られ

ませんでした。

また、ページがかなり飛びますが、77ページをご覧ください。

77ページ、「小学校就学後の放課後の過ごし方について」ということで、「お子さんが小学生になったら、放課後はどのように過ごさせたいですか。」という質問を就学前児童対象として調査をしました。結果としてみますと、低学年の場合、高学年の場合と分けて聞かせていただきましたが、低学年高学年共に「自宅」が一番高くなっていました。続いて「習い事」、その次に「アフタースクール」となっていますが、「アフタースクール」の利用については低学年の場合に若干高くなっていることが分かるかと思います。

続きまして、81ページをご覧ください。

81ページ(28)、「お子さんの放課後の過ごし方についてお伺いします。」、「現在放課後において過ごしている場所」と「今後の希望場所」を教えてください。」というので、こちらは小学生を対象としてお伺いする質問でして、現在利用しているところと、今後どこで利用したいかといったところを聞く質問となっています。現在も今後ともに「自宅」が最も高くなっていました。続いて「習い事」が高く、その次に「祖父母宅や友人・知人宅」といった状況が見られました。

85ページをご覧ください。

81ページのところで、放課後現在利用している・過ごしている場所を聞きましたが、そこで、「アフタースクール」を選択しなかった方に「なぜアフタースクールを利用していないのか」といったところを聞く質問を85ページに設定しています。ここで、一番高かったのが、「現在就労していないから」が26.0%、その次に「就労しているが、他に身の回りの世話をしてくれる人がいるから」が19%、「就労しているが、放課後の短時間なら子どもだけでも大丈夫だと思うから」が18.5%となっています。前回結果と比較すると「就労しているが、アフタースクールは利用料がかかるから」が前回と比べて7ポイントほど高くなっていることが分かるかと思います。

続きまして、88ページをご覧ください。

88ページ、「育児と就労の両立について」ということでして(30)、「お子さんが生まれた時、父母のいずれか、もしくは双方が育児休業を取得しましたか」という質問です。上のグラフが父親の育児休業の取得の有無、下のグラフが母親の育児休業の取得の有無でした。まず、父親の方ですが、就学前児童の父親の場合は「取得した(取得中である)」が2.6%、「取得していない」が87.3%となっています。前回結果と比較した場合に大きな違いは見られませんでした。小学生の父親の場合でも「取得した(取得中である)」は1.6%「取得していない」は83.9%で、前回結果と比較した場合に大きな違いは見られませんでした。一方、母親の場合ですが、まず、就学前児童の母親の場合は「働いていなかった」が53.0%「取得した(取

得中である)が34.3%、「取得していない」が8.8%となっております。前回結果と比較すると「取得した(取得中である)」が高くなっています。また、小学生の母親の場合では、「働いていなかった」が62.1%、取得した(取得中である)」が23.0%、「取得していない」が9.0%となっております。こちらの場合でも前回結果と比較した場合は、「取得した(取得中である)」が高くなっていることが分かります。

また右のページに、89ページ、90ページですが、「育児休業を取得していない理由について」です。まず、89ページ、父親の育児休業を取得していない理由ですが、左側のグラフの就学前児童の父親の場合ですが、「配偶者が無職、祖父母などの親族に見てもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が27.5%で最も高くなっています。また、小学生の父親の理由も同様に「配偶者が無職、祖父母などの親族に見てもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が30.9%で最も高くなっていました。前回結果と比較した場合、「職場に育児休業の制度がなかった」は低くなっています。一方で、「育児休業を取りにくい職場の雰囲気があった」は前回結果と大きな違いは見られませんでした。

90ページには母親の育児休業の取得していない理由を掲載しています。

就学前児童の母親の理由として「職場に育児休業の制度がなかった」と「有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった」がそれぞれ21.4%で最も高くなっていました。また、小学生の母親の理由としては「職場に育児休業の制度がなかった」が18.5%で最も高くなっていました。前回結果と比較してみますと「有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった」という理由が、就学前児童の母親では、19.3ポイント、小学生の母親では14.5ポイント低くなっています。

ページが少々飛びますが、99ページをご覧ください。

99ページ、「子どもと一緒にの時間や親の介護、自己実現のための時間が十分に取れている(仕事と生活の調和がはかられている)と思いますか。」ということで、ワークライフバランスの状況を聞く質問となっています。こちらですが、まず、上のグラフが父親の場合となっておりますが、父親の場合は「はかられている」が就学前・小学生の父親共に、前回調査よりも高くなっています。また、母親の場合も就学前児童・小学生の母親共に前回調査と見比べて「はかられている」が高くなっていました。ただ一方で、「はかられていない」といった回答の実際の割合もほとんど変わっていないことが分かります。

続きまして、102ページをご覧ください。

102ページ、「赤穂市での子育てについて」というところで、「子育てに関する分野のうち、行政の取り組みに対してどのように感じていますか。」という質問の結果となっております。こちらにつきましては、106ページの図表を見てもらった方が分かりやすいかと思います。こちらの図表ですが、左側が就学前児童、右側が小学生

ですが、それぞれの対象について、特にどの項目の満足度が高かったかの結果を掲載しています。就学前児童では上位3項目として「子育て学習センターや児童館など子育て支援施設の充実」、「幼稚園、保育所の充実」、「妊産婦・新生児訪問指導の充実」が高くなっていました。小学生では、「幼稚園の充実・保育所の充実」、「幼稚園における預かり保育事業の充実」、「子育て学習センターや児童館など子育て支援施設の充実」が満足度の高い項目としてあげられていました。

続きまして107ページをご覧ください。

「赤穂市は、子育てしやすい環境にあると思いますか」というところで、上のグラフが今回の結果、下のグラフが前回の結果との比較となっています。まず上のグラフ、就学前児童では「どちらかというと思う」が54.4%で最も高く、次いで「そう思う」が24.0%となっていました。また、小学生の場合でも「どちらかというと思う」が56.9%で最も高く、次いで「そう思う」が19.0%となっています。下のグラフが前回結果との比較ということで、前回の調査のときは「子育てしやすい環境にあると思いますか」という質問に対して「はい」、「いいえ」、「わからない」という回答でした。ですので、今回比較を行うにあたり今回の「そう思う」、「どちらかというと思う」を「はい」、「どちらかというと思わない」、「そう思わない」を「いいえ」と換算して比較をしています。前回結果と比較しますと、まず、就学前児童では「はい」が前回と比べて高くなっています。また、小学生の場合でも、「はい」の割合が前回と比べて高くなっていることが分かるかと思います。

続きまして110ページをご覧ください。

110ページ、「将来、お子さんにどのような人に育ってほしいと思いますか」という質問で、まず左側のグラフが就学前児童ですが、就学前児童では「公共心や社会常識、マナーを身につけた人」が76.8%で最も高く、次いで「人の意見に耳を傾け、柔軟に受け入れられる人」が74.1%、「逆境に負けない忍耐力と自立心を身に付けた人」が60.6%となっておりまして、前回結果と比較した場合「ふるさとや日本の自然や文化、伝統を愛し、大切に作る人」が若干低くなっていました。また、小学生では、こちらも「公共心や社会常識、マナーを身につけた人」が71.6%で最も高く、次いで「人の意見に耳を傾け、柔軟に受け入れられる人」が66.4%、「逆境にまけない忍耐力と自立心を身に付けた人」が66.0%となっています。前回結果と比較した場合「公共心や社会常識、マナーを身に付けた人」や「人の意見に耳を傾け、柔軟に受け入れられる人」が若干高くなっていました。

最後ですが(37)、「あなたはこれからもお子さんに赤穂市で育ってほしいと思いますか。」という質問です。これについては、就学前児童では「そう思う」が37.8%で最も高く、次いで「どちらかというと思う」が36.0%、「わからない」が14.0%でした。小学生では「どちらかというと思う」が37.0%、次いで「そう思う」が28.6%、「わからない」が14.9%でした。前回結果と比較

した場合、就学前児童・小学生ともに「そう思う」が若干低くなる結果となっていました。以上が、調査結果、報告書に基づく調査結果の報告となります。

続きまして、「自由回答のまとめ」と記載されております左肩にホッチキスを打った資料をご用意いただければと思います。

就学前・小学生ともに調査票の一番最後に自由回答ということで「教育・保育環境の充実などで子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。」という設問を設けておりました。ここにつきましては、就学前児童では全回答者800件からのうち421件。小学生では全回答者1,445件のうち471件の回答がありました。この内容についてですが、まず、大きなテーマに分けたあと細かなテーマに分けて、その細かなテーマについてそれぞれ何件あったかを記載しています。

まず、一番最初が「医療について」ということで、まず一番上が「医療費助成の拡充」が就学前児童保護者、小学生保護者を合わせて23件、「病院の増設・充実」が18件、「緊急医療の体制整備」が6件、「不妊治療の助成、ケア体制の充実」が3件、「受診しやすい健診、予防接種」が2件、「出産時の環境整備」が1件ということで、医療に関するご意見は合計53件でした。

続きまして、②の「保育園・幼稚園について」ということで、まず一番上から「幼稚園の充実」が合計103件、「幼稚園・保育所・認定こども園へ入りやすい環境整備」が合計46件、「保育料の軽減」が26件、「保育所の充実」も26件、「一時預かり利用の充実」が20件、「病児病後児保育」の充実も20件、「幼稚園・保育所・認定こども園の質の向上」が12件、ページめくっていただきまして「幼稚園・保育所・認定こども園の増設・定員増」が11件、「保育士の待遇改善」が7件、「その他」が27件ということで、合計298件でした。

③「小中学校・高校について」というところは、まず、「アフタースクールの充実」が57件、「学校教育や教員の質の向上」が39件、「費用の負担軽減」が24件、「校舎等の改善・整備」が16件、「放課後や長期休暇の際に誰にでも過ごせる場所の充実」が7件、「PTAの改善」が5件、「給食の改善」も5件、「通学路の安全」は4件、「校区設定の柔軟な対応」も4件、最後「その他」が32件で合計193件のご意見がありました。

次のページに移っていただきまして、④「子育て支援・サービス等について」ということで上から「子育てに関する経済的負担の見直し」が35件、「子育てしやすい雇用環境の改善」が35件、「子育て支援サービスの充実」が28件、「子育て支援に関する情報の提供」が26件、「障害児やその家族に対する支援の充実」が20件、「相談しやすい窓口や場の充実」が7件、「保健師や電話相談、窓口の職員の対応向上」が2件、その他が9件で合計162件でした。

その下5番目ですが、「公共施設・公共交通機関・安全対策について」というところは「安全なまちづくり」が23件、「公共交通機関の充実」は5件、「マナーの改善」が2件の合計30件でした。

ページをめくっていただきまして、⑥「遊びの環境・子育て支援施設について」です。上からですが「子育て施設・児童館の充実」が合計22件、「公園の増設・整備」が合計21件、「遊べる施設の充実」が8件、「スポーツ施設の充実」が7件、「図書館の充実」が2件で合計60件となっていました。

最後の「まちづくりについて」ですが、上から「希望するまちづくり」は43件、「アンケートについて」は14件、「市内の支援の格差解消」が12件、「特になし、現状で満足」が11件、「その他」が15件の合計95件でした。

簡単ではありますが以上で「赤穂市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査結果報告書」の説明とさせていただきます。

～会長～

ありがとうございました。

今回のこの会議というのは、ニーズ調査ですね、その中身を精査するというか、それについての審議というよりも、内容を確認しながら意見を出してもらって、これは次年度以降の中間見直しの方に繋げるというような位置づけになると思います。今日のこの調査、非常に大部ですので、今、簡単にとおっしゃいましたけれども、なかなか理解するのについていけないところも私はありますが、お気づきになった点ですとか、もちろん全部説明していただくわけにはいきませんでしたので、少し途中飛ばされた所などについても、もう少し説明してほしいと思われるようなところもあったと思いますので、何かご意見ご質問等、まずは、お気づきの点から出していただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

赤穂市の今一番大きい変化の一つが、多分、幼稚園の3歳児保育のことではないかなと思ひまして、それについての質問というのが45ページのところにアンケートの結果ということで出ております。「平成30年度より一部の幼稚園で3歳児保育を行っています、幼稚園における3歳児保育の利用を希望しますか」ということで、そちらの方の結果がこのように出ています。「はい」が53.4%で、「利用したいと思わない」が41.4%というようなことですので、多いと見るか少ないと見るか、半数以上「利用したい」というような要望が出ておりますので、この辺のところをどうケアというか担保していくのかというようなところも、必要になろうかと思ひますけれども、その他何か皆さんの方でお気づきになられた点などございませんでしょうか。

～委員～

たくさんの質問でこれだけ分析されていて、その中で、107ページの「赤穂市は子育てしやすい環境にあると思いますか。」というズバリの質問なんですけれども、前回に比べて就学前の児童も小学生も「子育てしやすいと思う」保護者の率が上がってますよね。素晴らしいなと思いました。どの市町村も努力していても、なかなか。いろんな要望が多いと思うんですけれども、まず、ここはすごいなというふうに思いました。意見です。

～会長～

ありがとうございます。

～会長～

非常に多岐に渡っておりますので、ここちょっと見たいですというところがたくさんお有りだろうと思うんですけれども。

以前のアンケートの結果の報告で、ひとり親家庭のところ、父子・母子で分けてましたですかね。どうでしたでしょうか。ちょっと、今、手元に以前のアンケート結果を持って来ていないんですけれども。別に分けることがいいとか悪いとかというようなことではなくて、実際に、支援に繋がる具体的な方法を考えていくには非常によろしいというような面もありつつ、どんな風に公開するのだろうかを考えた時に、父子・母子まで分けて公開するのか、ひとり親ということで公開するのか、いろんな事情のご家族が、今、いらっしゃいますので、その辺りをどうするのかなどということなんです。アンケートは数でいろいろとクロス集計などして、いろんな結果をとらえることが出来るんですけれども、それをどのように赤穂市の支援だったり、施策の方に繋げていくのかということがないと少しどうかなということもあるので、そのようにされているのだと思うんですけれども。

～オブザーバー～

確かに、前回はひとり親ということで分けずに分析させていただいておりました。

ただ、他の自治体でも、今この調査を進められている中で、やっぱり多様化している状況があるということで、分けてみるというところが増えております。ただ、赤穂市の場合、件数もかなり少ないので、これだけで傾向が言えるかということ、なかなか難しいところあるんですが、ちょっと説明になかったかもしれませんが、父子家庭の方が、なかなか支援に繋がっていなかったり、孤立してしまっているんじゃないかというような傾向は見てとれましたので、問題提起というところになると思うんですが、こういったところも出していく方が次の計画を考える課題の一つにはなってくるかなと。アンケートも回答いただいている方だけのご意見でして、おそらく父子家

庭の方ですと、なかなか回答も難しいというところもあると思いますので、これが埋もれてしまうことのないようにということで、今回は報告書にあげさせていただいております。

～会 長～

ありがとうございます。

そういうようなステップというか方法が見えるような形ですと、市民にとっても分かりやすいかなというふうに思います。どうしても、就学前ですと、特に父子家庭の数が非常に限られているものですから、狭い地域ですので、すぐに見えてしまうということがございます。非常にセンシティブな回答の場合には、「無回答」の数が非常に大きい割合を占めておりますので、そうすると数だけで判断、今ご説明して下さった通りですね、数だけで判断するのもなかなか厳しいところがあるのではないかなと思ったりしています。そのような意味で意地悪だったかもしれませんが、すみません、伺いました。

他に何か皆さんのほうからございませんでしょうか。

～会 長～

また私からですね。54ページ以降「土曜・休日や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の利用について」という所なのですが、ここの部分がずっと続きますけれども、土曜・日曜や長期休暇の教育保育事業の利用規模ですね、ものすごく多いわけではないとは思いますが、一定数あるなというふうに私は見ました。さっき見たばかりで申し訳ないのですが、実際、前にも預かり保育が幼稚園でもすごく増えているというようなことを伺ったと思うのですが、アンケートには、実際の数は出ていないんですよね。そういう調査ではないので、実際には出ていないのですけれども、前年度の利用者数ですとか見込み数というところで、特に幼稚園だったと思うのですけれども、預かり保育が増えているというようなことでした。それに関連して赤穂市の全体的な保育教育事業については満足しているんだけど、項目別にもう少し細かくみると、充実させてほしいというところも見られました。特に、祝日、土曜・日曜、長期休暇については、利用する必要がないという方も、もちろんいらっしゃいますけれども、それよりも多いくらいの方たち、56ページ、59ページなどですけれども、赤穂市は特に幼稚園の人気が高いですから、そこでの土日の週末ですとか長期休暇に預かってほしいというようなニーズが高いというのは当然考えられるわけです。何かその点について皆さまの方からご意見ですとかご質問等ございませんでしょうか。勝手に私が言ってるんですけども。

～委員～

すみません、今、会長のおっしゃった点なんですけれども、59ページの夏休み・冬休みなどの長期休暇中に、やはり皆さん利用したいという希望が多いように見受けられたんですけれども、当園の行っていることとしまして、夏休み中、もちろん、子ども園の部分では就労されている方は毎日来られますけれども、1号さんの就労されていない家のお子さんも、夏休み長いですので、幼稚園で遊びたいときは幼稚園に来てお友達とプールに入ったりということで、希望に応じて今、受付を行っています。自由に来たい時に来れますので、そういったニーズに応じているかなという感じではあります。何か参考になればと思います。

～会長～

ありがとうございます。

実際に夏休みに利用された方などは、委員のお子さんですとかいらっしゃいますか。

～委員～

すみません。公立も実施されています。

～会長～

お願いいたします。

～事務局～

今、土曜・休日の利用ですとか長期休暇中の利用の希望ということでご意見をいただいたところです。今現在の赤穂市の状況としましては、長期休暇中に関しましては、保育所は当然通年で預らせていただいております。幼稚園につきましては、預かり保育、こちらにつきましても、夏休みはもちろんのこと、冬休み春休みも預らせていただいている状況でございます。休日の保育は公立の保育所では行っていないんですが、土曜日につきましては午前中預らせていただいております。あと、1か所の保育所で一日預かりはさせていただきます。長期休暇中の利用希望というのが、就労を目的とした利用なのか、子どもさんも長い夏休み中ですので、ご家庭ではなくて、ちょっと幼稚園で遊んでみたいなというご利用なのか、そういったところを検討する必要があるのかなというふうには思いました。

～会長～

ありがとうございます。

～委員～

幼稚園のアフターでの預かりについてです。今、長女が小6、二女が小4なんですけど、二女が年少のときは自由に預かりの登録が出来たんですけど、年長に上がるタイミングで同居している父親母親の就労証明、それから、もし祖父母が同居していれば、祖父母の就労証明も出さなければ幼稚園の預かりは利用出来ないというふうになったので、4年か5年前に利用方法が切り替わったと思うんですけど。多分、幼稚園の子どもがおられる保護者さんについては、きっと、就労といっても10時から14時ですとか、普段の開園している時間帯はお迎えに行けるけれども、それが夏休みに入ると、4時間ですとか5時間の就労で、開園期間は放課後にあたる部分には働いていないけれど、夏休みとかになると、どういえばいいのかな、4時間ですとか5時間という部分は働きに出るといふ利用の仕方がどういふふうになっているのかなと思って。多分、私が利用していた頃はお迎えに来れる時間のパートでの就労だったらアフターは利用できなかったんですね。なので、登録が出来ないので自動的に夏休みも利用できないというような形だったんですけど。多分年数が経っているので変更していると思うのですが。

～委員～

就労証明があれば、長期休暇中のみの預かりも可能で、預かりをしております。

～会長～

このアンケートでもですね、利用したいというようなことが出ている、利用したいという気持ちが表れているということなどをどのように解釈するかということなんですけれども、もしかしたら、情報が行き届いていないということも、一部あるかもしれないなと思いました。

あと、赤穂市の方でここ数年懸案となっていた病気の際の対応についての要望も出ておりました。数が非常に多いというわけではないんですけども、実際に、やはり一定数の要望があって、さらに、実際には母親が多く仕事を休んでいるとかですね、利用しなかった人達のなかでも、出来たら利用したかったということが出ています。相対的な数としたら、何十人とか何百人とかということでは、もちろんないんですけども、これも相変わらずとか引き続き赤穂市の検討事項になるのかなというふうに拝見しました。

～委員～

せっかくの機会ですので一言。50ページから53ページにかけて、赤穂市で様々な取り組んでいる事業を知っているのかとか、利用したことがあるのかとか、今後利用したいかというようなアンケートの結果があるんですが、この会議でも何回か

あったと思うですけれども、赤穂市は様々な事業をやってるんですけれども、なかなか周知が出来ていなくて、過去に「伝わっていないんじゃないか」とか、「やり方がもうちょっと工夫あるんじゃないの」みたいな意見があったと思うんですが、51ページ読みますとですね、前回と比較すると、それぞれが前回よりはプラスになっているのかなというようなところで、少しずつではありますけれども周知が出来ていきつつあるのかなというふうに感じました。ただ、そういった中でですね、全然知られてない事業とか、利用もしたこともないし、今後も利用する気もないみたいな、子育てショートステイ事業とかこういったところも見受けられますので、少しそういうところにつきましては、課題というのか、それがなぜ知られてもないし利用もしたいと思われないのか、私も細かい事業の内容は分からないところがあって申し訳ないですが、そういうところに少し工夫の必要があるのかなと。プレママ・プレパパクラスというのもあまり知られてないし、利用したこともないし、今後も利用することもない。よく分からない事業だからということなのかもしれませんけれども、少し、そういったところに工夫が出来るのかなというふうに思いました。以上です。

～会長～

ありがとうございます。

情報発信の重要なところというふうに見えたかと思えます。ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

こちらの結果につきましては、事務局の方でさらに、確認作業というか精査などされるわけですね。それで、公開というようなことになるのですよね。

～事務局～

この報告書につきましては、最終確認をいたしまして、きちんと製本した報告書を作成し、委員の皆様にお配りしたいと思います。それと共にホームページの方にも掲載する予定でございます。

先ほども様々なご意見いただきまして、この調査結果につきましては、来年度以降、集計・分析を精査し、幼稚園がこれからどれくらい必要なのかとか、保育所がどれくらい必要になってくるのか、そういうようなことのニーズ量を出しまして、それをもとに第2期の子ども・子育て支援事業計画を来年度策定していくという予定になっております。

～会長～

ありがとうございます。

今年度も最後ですし、委員も2年任期の最後ということですので、皆様の方から何か一言ずつ、もしよろしければ、今回の調査に関連して、あるいは、少し離れてもか

まいませんので何かございましたら出していただきたいのですけれども、よろしいでしょうか。

～委員～

私は先ほどのプレママ・プレパパクラスとかね、子育てショートステイのこととかで、もっと周知をする必要があるんじゃないかということで、プレママ・プレパパクラスの方は、始まってまだ時間がないような状況ですけれども、私もそこに関与させていただいて、すごく良い講義の時間だと思います。新しいお父さんお母さんを対象に妊婦体験のようなことをしたり、どのようなリズムで生活するかというようなことを考えて、新しい子どもが誕生したら生活スタイルがどう変わっていくかみたいなことの良いお勉強の機会になっていて。皆さん喜んで参加されてますのでね、これから、そこに行かれる方は保健センターからの声掛けだったりとか、初めて妊婦さんになれる方、お母さんへの声掛けから始まっていくと思うんですけれども、すごく良い取り組みだと感じています。だから、今から重宝されるんじゃないかと思っています。

子育てショートステイに関しては、私自身、自分が介護をしながら子育てしている時期があったので、保育園に継続的に入れるのではなくて、その時に子どもを一時的に見ていただきたいような時期もあったのですが、実際には都会的な部分のサービスなのかなと思ったりしてます。先ほどの病児病後児保育開設も私は必要だと思っているんですけど、なかなか赤穂市は出来ていない状況で、相生市にはそういう事業もあるような感じなんですけれども。赤穂市もある意味では、祖父母がご近所にいらっしゃるというかね、市内におられたり、車で何分かかけて行けば、そこにお子さんを預けられる方もいらっしゃるということでね、そういう部分がフォローされているんだろうなというのを感じています。

これからの時代は、本当に、またそういうことが必要に迫られる時がくるのではないかなと思っていますので、準備していただけたらなというふうに思っています。ありがとうございます。

～委員～

全体的にみた感想ですけれども、106ページの満足が高い順に並べた場合のところで、上位は、やはり、すごい見える部分が満足ということで表れていて、「子育て学習センター」や「児童館」、先ほど言った「妊産婦・新生児訪問指導の充実」とか、すごく見える部分の満足度が高いわりに、利用してないんですか、知らないんですかといったデータのバランスがちょっと悪いなど。あと、やっぱりちょっとグラフの下の方ですね、「虐待の予防と早期発見への取り組みの強化」だったり、「病児病後保育事業の実施」、「児童・青少年健全育成のための環境整備」とか、この辺の満足度が低いんですね。こういうところは見えにくい部分ではあるんです。見えやすい部分

には満足しているけれども、見えにくい部分、表に出てこない部分の満足度が低いので、行政として、この下の部分も、もう少し手厚く何らかの取組みが必要なんじゃないかなというのが今回の感想です。

～委員～

幼稚園です。先ほどから話題に出ているような「預かり保育」などで、働くお母さんがかなり働きやすくなっている状況のお手伝いはさせていただいているのだと思うのですが、資料を見ていまして、働いていらっしやらないお母さんもたくさんいらっしやって、そういうお母さんたちっていうのは、やっぱり、何かと、家にいるでしょみたいな感じで理解されにくいところもあります。子育てはとても大変で、悩むところも多くて、そういうお母さん方への支援というかサポートというのか、そういうところが、こういう数字にすると見えにくいところがあって。さっきも話に出ていたような見えにくいところが数字に表れていないということが確かにあるので、数字だけに偏ってしまう事業にならないようになればいいなと思っています。

～委員～

当園は赤穂で唯一の認定こども園でして、特徴としては、保育所と一緒になんですけれども、1歳から就学前まで一貫してそこで教育を受けることができるということと、幼稚園が母体なので、いろんな地域に限られない赤穂市のどこからでも来れる幼稚園という位置づけも出来る、そこが大きな特徴かなというふうに思っております。

でも、今回初めて委員としてここに参加させていただくことが出来て、ぜひとも唯一のこの園の特徴を、赤穂の中で上手に位置付けていただくことが、私たちとしては一番お役に立てるかなというように思っておりますので、それを最後にお伝えして、委員として入れさせていただいたことを嬉しく思っております。

今、委員がおっしゃった、数字に出てこない、働いていらっしやらないお母様への支援ですね、それは私も痛感しております、実は孤独に陥るのは働いていないお母さんです。結構働いているお母さんは職場や保育所で意外とストレス溜まらないところがあるんです。違うストレスは溜まりますけれども。本当にお家で子育てをされている方に対してのいろいろな支援が必要かなと思います。あと一つ、3歳児保育ですね、45ページについてです。先ほど、会長もおっしゃいましたけれども、利用したいと思っている53.4%。私、意外と少ないなと思ったんですけども、少し下をみていきましたら、働いていらっしやる方は3歳児保育といわなくても保育所に入れていますので、実はこの専業主婦というところの65.9%が実際のニーズに近いのかなというように思いました。3歳児保育も、働いていないお母さんが子どもを通じていろんなコミュニケーション取れる場所なので、今、3歳児保育を進めていらっしやことは、良いことだと私は思っております。ありがとうございました。

～会 長～

ありがとうございます。

～委 員～

失礼します。保育所です。私自身は保育所で勤めていますので、仕事をされている保護者の方と接することがとても多くて、この会議に出させていただいて、子育てという部分でいろんな立場の家庭があって、その家庭に合ったニーズがいろいろあるのだなど、また、それに対応する子育て支援、ひとつひとつが大事になってくるのかなと改めて思いました。保育所だけではなく自分自身の視野を広げて地域全体の子育てということをもう一度考えていかないといけないなということを、この会議で改めて考えさせていただいたことに感謝しています。このアンケートを今回取ったことで、保育所のことについてもいろいろ書かれてありましたが、別紙で書かれてあります、「ご自由にご意見を」というところで、保育所のことはいくつかあがっています。やっぱり教育の見直しだったり、安全性という部分でも問題に思っている方もおられるという事実を真摯に受け止めて、これからいろんなことを支援していけたらなと思いました。以上です。

～委 員～

失礼します。保育所です。私、この会議に初めて参加させていただいております。分からないことも見えてないこともたくさんあると感じたのが率直な意見なんですけれども、保護者の方はもちろんのこと、やっぱり子どもたちの気持ちをまず第一に、それと安心安全、いろいろな方に真摯に対応出来るような保育所作りに努めていきたいなと思っております。具体的なことではないですけども、毎日、日々の生活を大切にしながらいきたいと思います。

～会 長～

ありがとうございます。

～委 員～

保育所の保護者として出させていただいているんですけど、今年度で娘も卒園する時期になって、最終まで保育所の先生方には私も子どももお世話になって。正規職員で働いているということで、土曜日の保育事業などもお手伝いしてもらって、本当に感謝しています。また、アフタースクールなど、いろんな事業のことをこの会議のなかで知れたし、それを保護者の方に発信出来たらなと思いました。あと、アンケートをやってみて、問いが多すぎてすぐ出来るものではなく、時間がすごくかかりました。あと、「病気で休んだのは何日ですか」という問いで、一年間教えてなかった

ら答えられないような質問があったので、答え方が「何日以上」とか、そういうところを答えやすいアンケートにさせていただけたらよかったという意見がありました。

～委員～

私、連合ということで、労働組合の代表なんですけれども、最近は共働きということで、働きながら子育てされる方もたくさん増えています。子育ての支援ということで、企業内では育児休業とかそういった制度の改正ということで、しっかり取り組むということが大事というなかで、90ページの「育児休業を取得していなかった理由」で「育児休業の制度がなかった」というのは少し気になるころではあります。しっかりと企業内では取り組むということではありますけれども、なかなかそれだけでは難しいということで、行政の方にもですね、子育て支援をしていただくというか、企業のなかでやることと、行政で助けていただくこと、この両輪で働くお父さんお母さんが子育てが出来るような環境を整えていければなというふうに思いますし、やっぱり、この107ページにありますように、子育てしやすい環境にあるかということが、どんどんプラスになってるということは、非常にいいことかなというふうに思います。

少し話が外れますけれども、最近、私どもの会社でも、若い人が少し交通の便とか都会に住みたいということで、姫路の方に家を構える人も少なくなってますね、赤穂市の子育て支援はしっかりしているので赤穂に住むように、ということを我々もPRさせていただいて、そういったところでも取り組んでいけたらなというふうに思います。

～委員～

公募委員として参加していました。

私は3人の子を幼稚園に入るまで家庭でみて、13年くらいかな、専業主婦をしまして、今年度、末の子が小1になったのをきっかけに働き始めている状況です。子育て支援って、かなり多岐に渡ると思うんですけど、子どもを産んで育てる一母親として、子どもって、子育てって大変だけど面白いなとか、子どもってしんどい時あるけど、でもやっぱり可愛いなという思いを感じて、就園前までの親子の時間を過ごせることに繋がったら、すべてが子育て支援になっていくのかなと思います。すごく漠然としているし、お母さんひとりひとりの背景も違うし、すごく難しい取り組みだと思うんですけど、何か微力ながら、私も関われたらなと思って、参加しました。今、結構話に出てくるのが、働きたいとか、働いておられる家庭の子どもの預かりだとか、アフターだとか、いろいろ支援策として出てきてると思うんですけど、途中で話があったように、いわゆる専業主婦で子育てしているお母さんこそ、結構、リフレッシュとかがないと、本当に密閉空間でいっぱいいっぱいになるとすごい怖いことに自分自身もなってしまうので、幼稚園の預かりで言えば、幼稚園の就労証明があつて、登

録していないと利用が出来ないというだけではなくて、長女が利用していた時のように、例えば美容院に行くためだとか、ちょっと今日は一人になりたいからという形でも利用できるような柔軟性があれば嬉しいなと思いました。ファミリーサポートのほうも、7年くらい提供会員させてもらってるんですけど、なかなかファミリーサポートってどういった人が預かってくれるのかとか、その人がどういう人なのか分からない分、第1発目の預かりってすごく不安を感じられる方も多くて、その部分の広報もあれば、提供会員としては、よりたくさんの子どもと繋がって、少しでもお母さんの楽な時間、リラックスできる時間を生むことができるのかなと思います。産前の支援としては、妊婦健診の券だとかいろいろあると思うんですけど、産後サポートして、今、ひとり親家庭にはファミリーサポートも割安で利用できるんですけど、産後の利用券みたいなものが赤穂市の子育て支援として、何かお母さんがリフレッシュ出来たりとか、これを使えば私もこんな時間が持てるんだというようなものがあれば、とてもハードルが下がってアクセスしやすいのかなと、そんなふうに思います。

あと一つ。3歳児保育なんですけど、45ページに出ている数字53.4%がニーズとして高いのか低いのかは、私では分からないんですが、一つ思ったのは、「利用を希望しない」と答えている41.4%の方の思い。その方々の中には3歳で預けることへの不安、特に2・3歳は個性の差、出来ることと出来ないことの差がすごく見えてくる時なので、集団生活に入ると出来るようになる。だけど、我が子の出来ないところが見えるようになる。例えば、オシメが外れてないとか、フォークスプーンが、まだ使えないとか。出来ないとかやれないという所にお母さんが注目してしまうと子育てがすごくしんどくなる。3歳児保育は社会的にもその方向でいくと思うんですけど、今、「利用を希望しない」と答えられている方の背景にある思いということも、数字にも出ないし言葉にも出てきていないですけど、どこかそんなところがキャッチ出来るものがあるといいのかなと思いました。以上です。

～会長～

ありがとうございました。

教師の性でついつい皆さんにマイクを回してしまったんですけど、もっと早くすれば良かったと思っているところでございます。

このアンケートにつきまして、何かありました場合には、また事務局の方と協議させていただきまして、何か修正ですとか、そういったことがあるかもしれませんけれども、そちらに関しましては、会長というか、こちらの方にお任せしていただけますでしょうか。いかがでしょうか。

～一同了承～

～会 長～

もし、ご覧になってですね、急遽何かありましたということがあれば、もちろん、事務局の方に言っていただければと思いますが、この結果報告につきましては、そのようにさせていただけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

続いて、「その他」ということで事務局の方からお願いいたします。

～事務局～

すみません。

先ほど、委員がおっしゃっていただいた件なんですが、まず1点目、就労している方しかお預かりが出来ないというのがあったんですけども、普通にお母さんのリフレッシュのために預かることは、赤穂市のなかでいろんな制度がございますので、市としましても、皆さんにまだよくお知らせ出来ていない、PR出来ていない部分かなと思われましたので、そのあたりの取り組みをいろいろしていかないとと思っております。また、3歳児保育につきましては、赤穂市におきましても、今年度初めて取り掛かりまして、試行ということで、やっと1年が終わろうとしております。そういった中で、私どもも手探りの状況でございまして、次年度に向けまして、お母さん方からのご意見、不安に思う気持ちを真摯に受け止めまして、PRといたしますか、お互いに話しをしながら進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

～会 長～

ありがとうございました。

3 その他

～事務局～

本日はそれぞれのお立場から貴重なご意見をいただきましたこと、本当にありがとうございました。このニーズ調査の結果も来年度の計画策定にしっかりと反映させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それともう1つは、病児病後児保育の関係ですけれども、来年度から開始する見込みがたちました。病児病後児保育についても、使っていただけるように頑張って周知していきたいと思えます。

さて皆様におかれましては、平成29年4月1日からこの委員にご就任いただきましてから2年間に渡りまして、活発なご審議をいただき本当にありがとうございました。

本日の会議をもちまして、皆さんの任期も終了ということになります。来年度の子ども・子育て会議委員につきましては、今後、各団体に推薦依頼をさせていただこうと思っておりますので、引き続き委員をお願いする方もいらっしゃるかと思えますが、そ

の際にはどうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

簡単ですけれども、お願ひと来年の報告とさせていただきます。以上でございます。

～会 長～

他にございませんでしょうか。なければ、これで会議を終了したいと思います。

皆様、ご協力ありがとうございました。

4 閉会